



住所 新宿区新宿5-17-17 渡菱ビル3F
 電話番号 03-3232-2525
 URL <http://www.ilovex.co.jp/>
 発行者 株式会社アイロベックス

平成21年9月 Vol.48

教えること、学ぶこと

自ら理解し、考え抜いたこと

■ 杉山 淳子

教

えること、学ぶこと。それは決して表裏一体のものではない。教えた者だけが理解することがある。そして、教えようとした者は、生徒の素朴な質問に答えられないことがある。分かっていると思っっていることを「口に出す」こと。そして「相手に合わせて分かりやすく教える」こと。この2つの間には、思いもかけないほど大きな隔たりがある。

ただ、はっきりと言えることは、「**自らが理解し考え抜いたこと**」しか上手に教えることは出来ないということだ。もちろん生徒の出来が悪いことは教師だけの責任ではない。しかし、ときにして生徒が成長するのに大きな力となる、素晴らしい教師というものが存在する。分かったつもりでいることだけは、避けたいものだ。



基本的な業務知識を備えよ

■ 小幡 直輝

ま

ず業務知識とは、簡単に言いつとんでしょわか？

企業活動における必要な機能を実現するために、経営資源を有効かつ効率的に利用するためのルールやノウハウと言ったところでしょう。

たった3〜5年の経験で、数多くの業務知識を習得できるのでしょわか？無理ですよ。

そうだとしたら、SEに必要とされている業務知識とは、いったいどんな知識でしょうか？

企業のシステム化の方向は、既存システムから代替システムの開発、あるいは既存システムの再構築にしても、統合情報システム化へ向けられています。ここで重視しなければいけないのは、システム全体としての一貫性、サブシステム間の整合性です。

個別業務の課題がクリアできても、一貫性、整合性を調整するための機能が必要になってきます。つまり開発に参加するSEが、ゼネラルな業務知識をどの程度、身につけているかにかかっているのです。

SEに求められるゼネラルな業務知識とは、企業の主要業務についての知識です。と言っても、各業務部門がもっている専門知識と同等の知識を持つ意味ではありません。

良いサイクルを繰り返そう

■ 加藤 泰伸

八

月末からプログラミング全般について講義していきます。第一回から数回は、オブジェクト指向プログラミングについて講義します。

よく本に載っているようなオブジェクト指向の話ではなく、私が勉強と実践を通じて理解した、オブジェクト指向の話をしてようと考えています。

また、講師が一方的に話す形式ではなく、課題などを通じて講師と受講者全員でディスカッションする形式も考えています。むしろ、そちら中心に進めていきたいです。その形式をとることで、皆の積極性を高めたいからです。

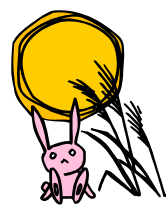
私が思うに、一番効果のある「学ぶ」方法は、「教えること」になるのではないのでしょうか。「学んだこと」は必ず他者に「教える」こと。そうすることにより、「学んだこと」がより自分の中で定着します。



『講義を通して積極性を高める↓
 お互いが教え合い、学び合うことが日常になる↓
 プログラムが楽しくなり、自信がつく』

こうした良いサイクルを繰り返すことで、結果的に業務で力を発揮できる人材が育つのではないのでしょうか。講義では受講者全員にレベルアップしてほしいという想いから、厳しい時もあると思いますが、すべては愛があつてのことです。プログラムが楽しくなるには、それなりに厳しい道のりもあるでしょう。

しかし、プログラミングで伸び悩みを感じている人や、もっとプログラミング出来るようになりたいと考えている人は、是非、参加してください。プログラミングの本当の楽しさを一緒に学びましょう。



自己満足では意味がない

■ 小佐野 貴久

業

務において、学ぶという事はどのようなことでしょうか？

単に作業をこなしていくだけでは学ぶことにはなりません。業務での経験を、自分の技術や知識として習得していく必要があります。また、業務というミッションを遂行するのに必要な技術や知識を、業務以外の時間で身につけることも、欠かしてはなりません。

先輩の立場になってくると、教える側として後輩に指導を行うこともあると思います。

教えることはとても難しいことですが、自分がどれだけ学んできたかが、教える力に繋がるのだと思います。学ぶというインプットのみならず、教えるというアウトプットも行うことで、一つの知識を習得したと言えるのではないのでしょうか。

私は、ただ一方的に教えるだけでは、教えたことにならないと考えています。



トータル的に広く、万遍なくという事です。「社会一般に通用する基本的な業務知識を備えよ！」ということになります。

産業分野は、大きく製造業、非製造業に分けることが出来ます。私の経験上、業種と言うよりも、製造する製品、工事、販売する商品、サービスなどの種別が同じである企業は、必要とされる業務はおおむね共通していると考えることが出来ます。製造業においては、生産形態には、見込生産と受注生産とがあります。

見込生産は、製品は、自社の標準仕様により製造する方法です。市場の需要動向を予測して、販売計画、生産計画を立てます。これをもとに、製品、部品を先行して生産、在庫しておき、注文に引当て販売する方法です。

受注生産は、注文の確定及び得意先との制作仕様の合意にもとづいて、製品を生産する方法です。



したがって、受注内容が決まるまでは、生産のアクションがとれません。

たとえば、見込生産の企業の場合は、市場の需要動向を予測して、販売計画、生産計画を立てるための、システムが要求されるでしょう。受注生産の場合は、見積の精度、個別の予算管理といったシステムが要求されます。

このようにどの生産方式によって業務の内容も決まってきます。求められるシステムも概ね類似すると考えられます。

個々の機能の個別の仕様を理解する事も必要ですが、システム開発を通じて、広く社会一般に通用する基本的な業務知識を習得することに、目を向けて日々努力をしていきたいと思います。

「ニッポンの社長」に代表の杉山が登場！



日本全国の社長を集めたインタビューサイト「ニッポンの社長」に弊社代表の杉山が掲載されました。

ニッポンの社長サイトとは、全国各地で活躍する経営者に経営哲学についてインタビューしたサイトです。

杉山のインタビューの中では、起業の経緯・理想の会社像・今後のビジョンだけでなく、「現場で動き続けるシステム」を開発する秘訣も公開しています。ぜひご一読を！ ↓ ↓

▶ <http://www.nippon-shacho.com/search/result.html?did=94>

編集後記

今回は、社内で定着してきている朝講習(※)にちなんで、「教えること 学ぶこと」をテーマに記事にしました。皆さんは教えること、学ぶことをどのように考えますか？

(※)アイロベックス朝講習では、プログラミングからマーケティングまで幅広い講習が行われています。

総合編集：エリザベート石塚
 デザイン：シンジャー牧野
 写真：ツマモコ黒木
 スタイロビー鈴木